

# 緑ネット通信 No.83

## 緑のネットワーク・まつど

代 表：藤田 隆  
 年会費：1000円  
 口座番号：00170-9-696174  
 連絡先：高橋盛男 090-2935-9444

都市の緑を残すためには、緑を見守り育む人のネットワークが不可欠です。私たちの活動の目的は、みどり特に樹林の保護・保全を願う人やグループと連携しその輪を広げ、豊かな生態系を保つ森を次世代に伝えることです。

## 松戸のみどり再発見ツアーNo.65 報告

### 「9000歩登っておいで初詣」

藤田 隆

正月の松が明け、成人式も終わり、本格始動し始めた1月9日上本郷駅に参加者6人が集まった。快晴で、厳しい寒さの割に風がなく、日なたでは暖かさが感じられた。早速、風早神社を目指した。数年前まで明市民センターがあった駅前の場所は整地され、赤土があらわになっていた。目の前を走る県道51号線は稔台方面から花島方面へ緩やかに下り、交通量の多い幹線道路である。この辺りは傾斜が急で「舗装される前は馬力の少ない自動車は上がり切れないほどだった」という古老の話に驚いたのをふっと思い出した。舗装された今でも自転車で上がるには手強い坂道である。

風早神社境内に入って右に二十三夜講の碑がある。月待ち信仰のひとつで旧暦二十三日は午前0時ごろの遅い時間帯に月が現れ、二十三夜に女性が集まる行事とされていた。奥に進むと切り倒されただいぶ時間が経過したと思われる玉切りの幹から新葉が芽吹いていて再生力の強さを感じさせてくれた。

次に向かった宮の下湧水は上本郷第二小学校の隣にあり、放課後児童クラブの敷地近くに水が湧いていた。カダヤシらしき小魚の姿が確認できた。小学校のプール脇にも湧水箇所がある。この日は見学できなかった。下見時に放課後児童クラブの小学生の案内で、湧水箇所を見学できた。かなり険しい急斜面で地層にたまった水が湧き出している印象だった。

学校内から湧出する水と放課後児童クラブ付近の湧水が合流し、新坂川へ向かっていく流れは勢いを感じさせて水音だった。

カンスケ井戸は急斜面から湧き出した水が溜まり、コイが泳ぐ池になっていた。よく手入れされている様子だった。

本福寺に向かう登り坂は井戸坂と呼ばれ、その昔台地の住民がカンスケ井戸の水を汲みに降りては登る大切な坂道だった。里やまグループ一起の会が長年掃除や竹の生垣づくりで坂道の保全を続けてきた。

本福寺で詣でた後、「斬られ地蔵」の由緒や、上本郷の七不思議に触れ、本覚寺に向かった。道路わきの植栽クロガネモチ、ナンテン、ソヨゴの赤い実が日に照らされ光っていた。本覚寺では墓所の端から富士山、秩父連山、日光連山がはっきりとみることができた。



カンスケ井戸前で

本覚寺を後にし、道路を進むと胸高直径70cmはありそうな立派なカヤの木があった。新しい住宅街ではあり得ない景色だ。明治神社境内には上本郷遺跡があり、縄文時代前期から後期の貝塚遺跡。竪穴住居跡、土器、石器など出土したようだ。

最終地点は二ツ井戸趾。道路の縁に石碑がたたずむのみの場所だった。片方の井戸が澄むと、もう一方の井戸は濁るという言い伝えが上本郷の七不思議のひとつになっている。

初詣を兼ねて神社仏閣、北総台地、谷津、湧水と設定したコースは天候、富士山の眺望にも恵まれ、すがすがしい気持ちに包まれた。

2024 オープンフォレスト in 松戸 5月11日~5月19日

# 森がみんなを待ってるよ

写真は昨年までの実施記録（一部を紹介）

ワンダーワールド 甚左衛門、八ヶ崎、囲いやま



## スタンプラリー-甚左衛門の森

「甚左衛門の森」には”イタチの木”、”妖怪の木”、”大蛇の木”、”あしながおじさん”、”焼きトウモロコシ”など、ヘンテコな名前が付いた木がいっぱいそんな木を探しながら森を歩き回るスタンプラリーが楽しめる。ハンモックや輪投げ、倒れた大木の枝の先から思い切りジャンプ！なんて、ワイルドな体験も。工作好きな子どもたちには、ネイチャークラフトも用意してるよ。

## スタンプラリー-八ヶ崎の森

草や木を見つけて完成させるスタンプラリー。ハナイカダ、チチミザサ、ガマズミ、サワフダギ、キリ、ノビル、モチノキ、ハリギリの頭文字を並べると「ハチガサキノモリ」。

ターザンロープも好評。距離は短いですがスピードがでてスリル満点。

## 木登り・囲いやまの森

森の広場の中心にそびえ立つイヌシデにネットを巻き付け誰でも登れる木登りの木を用意している。

囲いやまの森は音楽会を開けるコンサート会場があり、いるだけで楽しめる森です。



スタンプラリー-八ヶ崎の森



ターザンロープ・八ヶ崎の森



木登りネット・囲いやまの森

## キッズワールド 溜ノ上、野うさぎ、囲いやま



### 遊具とクラフト

子どもたちに人気があるのはハンモック、スラックライン、大型ブランコなどの遊具。クラフトはドングリクラフト（ブローチ、アクセサリ）、竹クラフト（竹ブンブン、竹カエル、竹ポックリづくり）、木っ端クラフト（アクセサリ作り、ツリー製作、毛糸クモノス）、竹ポックリづくりではノコギリを挽くこともできる。

### ハンモックほとんどの森で

幼児から高齢者までだれでも受け入れる樹林地。ハンモックに乗ってしまえば自然に笑みがこぼれる。しっかりロープをつかんでユラリ、ユラリ。真上のこすえからもらえる木漏れ日を楽しめる。

ハンモックは緑色のネットと丈夫なロープで手作りしたもの。市内ほとんどの森で楽しめる。

### 森から生まれたチョコットアート

伐倒した木から厳選したクラフト材料を組み合わせ、色付けして小型のツリーを作る。枝を組み合わせると毛糸で飾り付けるとクモの巣状のクラフト作品ができる。（野うさぎの森）

### スラックライン

体幹鍛えるスラックライン。チャレンジする子どもたちは 10 メートルのラインをバランスにとって訳なくゴールする。大人のチャレンジも見てみたい。（囲いやまの森）

竹ポックリは自分でノコギリを挽いて、ひもを通して作り上げる。小学校 1 年生もできる。人気が高い。



クラフトに挑戦・野うさぎの森



毛糸でクモの巣・野うさぎの森



スラックライン・囲いやまの森



竹ポックリ・野うさぎの森

## インスタグラムの情報発信手法

### 講習会実施

松戸里やま応援団では2月22日(木)14時から、街づくり交流室で「Instagram SNS の講習会」を実施しました。松戸市市民自治課が行う市民活動団体支援事業に応募したものです。支援事業の内容は市民活動を行う団体に対し、Instagram や SNS の活用方法等の悩みがあれば、それを解決するために講師を派遣するもの。

応援団では里やま活動への参加者を集める目的でInstagramを始めたが、さらなる情報の拡がりを仕掛ける手段と方法を探ることが講座実施のきっかけ。今回講座名を「Instagramの目的意識やターゲットをどのようにすべきか等の情報発信手法」を明確にし、参加を募った結果、関心の高い8名が集まりました。InstagramやSNSを利用するにあたって、①マーケティング手法から対象のニーズ把握、訴求ポイントを絞る。②ターゲットやペルソナを想定することで、具体的な対象を意識することができる。③言語化して対象のニーズやポイントを考える土台が必要だと気づくことができました。これが大きかったと考えています。

## 総会のお知らせ

日時：5月7日(火) 15時～17時

Zoomによるオンライン会議

参加は下記 URL で参加してください。

<https://us04web.zoom.us/j/9565748458?pwd=U1A2S0EwZFcwY250YkJKUXc3SmN2UT09>

ミーティング ID: 956 574 8458

パスコード: 3FdWD

## ～しぜんのコラム 57～

### ウラシマソウの釣り糸

春の怪しい花といえば、サトイモ科のウラシマソウ。蛇が鎌首を持ち上げたような不気味な花だが、これは花卉ではなく、真の花の集まり(肉穂花序)を包み込むように特殊化した葉(仏炎苞)だ。また、ウラシマソウの名の由来は、浦島太郎の釣り糸に見立てられた糸状の「花序の付属体」。釣り糸をたどって仏炎苞を開き、釣り糸の基部をのぞいてみよう。そこに真の花=花序(雄しべまたは雌しべの集まり)がある。



ウラシマソウ 2022.4.5 関さんの森

ところで、気になるのはウラシマソウの「釣り糸」で、なぜ糸状に伸びているのかだ。じつは、釣り糸を切除すると、花粉を運ぶキノコバエの仲間の訪花が減り、結実率が低下すること。ウラシマソウは、花粉を運ぶキノコバエの仲間を、まさに釣っていたわけである。

ちなみに、ウラシマソウは多年草で雌雄異株。自家受粉を避けるというメリットがある。また、成長に伴い雄株(雄しべのみ)から雌株(雌しべのみ)に性転換するという。若いうちはイモ(球茎)が小さいからコストのかからない花粉を生産。成長して球茎が大きくなると雌花を咲かせ、球茎の栄養分をつぎ込んで果実(種子)を実らせるのである。

(山田純稔)

## ★松戸のみどり再発見ツアー(観察学習会No.65)

### 「新緑の森をつないで歩く松戸・市川市ざかい散歩」

松戸市内の森、市川市との境界に隣接する市川市北部の森、残された自然をたずね、新緑萌える春の森をつないで歩きます。森の中でじっくりと樹木や野草と向き合い、身近なみどりを楽しみましょう。

4月20日(土) 9:30～12:30 (小雨実施) 参加費 300円(会員は100円)

集合 JR 武蔵野線東松戸駅改札口 9:30 持ち物 飲み物、帽子、マスクは自由

申込み・問合せ: 090-4078-3703 (藤田 4月1日から受付開始 18時以降) ※申込制・先着30名

その他 歩きやすい服装でどうぞ